

理研会報

発行日：令和3年3月22日
号数：No. 405
発行：印旛地区教育研究会理科研究部
HP：<http://rikainba.com>
メール：rikainba@yahoo.co.jp

★★

年度末は人事異動の時期。理科研究部の理事の先生方の中にも今年末をもってご勇退される先生方がいらっしゃいます(右記参照)。理研会報405号では、3名の先生からメッセージいただきましたので掲載いたします。

本年度退職される理事の先生方

富里市立富里中学校長	東城	孝先生
八街市立八街中央中学校長	大坊	孝志先生
富里市立富里南小学校教頭	石橋	健男先生

三十八年間を振り返って

富里市立富里中学校 東城 孝

教員に採用されたのは三十八年前。当時は右も左もわからないなか授業を行っていた。当時を振り返ると、なかなか器具がそろわず、思うように観察や実験ができなかった。幸いにも、理科を専門にしている諸先輩方の手ほどきを受けながら、自作教材の開発や巡検に同行させてもらい、鍛えていただいた。

私が授業をする上で一番大切にしてきたのは、生徒たちに理科を好きになってもらうことである。目の前のテストの点数も大切だが、将来科学に興味を持ち、日常の中の小さな疑問を大切してもらいたいからだ。そのためには、わかる授業の展開や考察しやすい観察・実験に心がけた。自ずと授業の準備に時間がかかる。しかし、それなりの準備をして望んだ授業は、自分が自信持って展開できるし、生徒たちも目を輝かせて身を乗り出してくる。そんな生徒の姿を見るたびに、次も頑張ろうとする意欲となった。

ところで、理科研究部の大きな取り組みとして、夏の教育研究集会と理科作品展がある。教育研究集会では、研究熱心な先生方の授業への取り組みを伺うことができ、自分の授業に取り入れてみたいという意欲を刺激される。また、理科作品展は部会・郡そして県と審査が進んでいく。是非上位の作品展を見に行っておきたい。児童・生徒の取り組みに感動するとともに、自分ならばどう指導できるだろうかと授業を振り返る参考となる。

最後になるが、先生方には理科好きの児童・生徒を育て、これからの理科研究部を一層発展させてほしいと切に願う。

未来少年コナンを超えて

八街市立八街中央中学校 大坊 孝志

退職を目前にしての原稿依頼であるので、本来であれば、会員みなさんに対して、これまでの理科研究部活動へのご協力のお礼と自分の来歴を簡単にまとめるのが筋なのだと思うが、生来の天邪鬼気質がどうしても邪魔をしてしまう。

昨年、NHKを見ていたら、「未来少年コナン」が放送されていた。このテレビアニメは何度か再放送されているが、最初に放送されたのは、私が高校生だったときなので、この時は懐かしく思い視聴した。あらすじは、ご存じの方も多いと思うが、西暦2008年(!)に核兵器よりも強力な「超磁力兵器」が用いられた最終戦争～当時の世相は、米ソの冷戦下であったので、あながち現実離れした設定ではなかった～により、五つの大陸が海中に没した。そして、その20年後に誕生する主人公コナンの冒険物語へと続いていく。40年以上の年月が経過しても、古くさくならない作品のできに感心するとともに多少の違和感をもった。それは、作品の根底にある、行き過ぎた科学技術は人間にとって害悪であり、自然との調和と共生が大切であるという概念。まさしくその通りである。しかし、現代社会に生きる私たちは、科学技術なしでは、生活が成立しないことを知っている。また、自然との共生を突き詰めれば、人類は一体、何億人が生き残れるだろうか。そして、コロナ禍の現在、科学技術の恩恵無しに現状を克服することはできないだろう。しかし、世の中には、科学の負の側面ばかりが強調されているという風潮があるのは否定できないのではないかと。特にカルト教団の出現や10年前の悲惨な原発事故以来、社会の常識と化しているようにも感じる。

ここで、理科教師として、立ち止まって考えたい。科学者は、単純に知りたいという欲求に突き動かされ、自然の原理や法則を明らかにするとともに、科学によって得られる利便性や経済合理性を求めてきたように思う。また、一方で、人類の明るい未来や希望を夢見てきたとも思う。翻って私たち理科教員は、いや、私は、子どもたちに理科の楽しさ、面白さ、自然の不思議さをどれだけ感じてもらえるような授業をしてきたか、自問自答を試みる。私たち理科教員が、楽しい授業を行うこと、それは、楽しそうに・楽しく授業を行うことに他ならないと思う。

来年、再来年、7年後、一人でも多くの子どもたちが、科学に夢を紡ぐことを願うとともに、これまで、研究部活動や拙い私に関わっていただいた多くの方々に深謝し結びとしたい。

お世話になりました

富里市立富里南小学校 石橋 健男

専門は社会科だったのですが、異動した2校目で何気なく誘われて行ったのが、2部会理科研究部との出会いでした。毎週放課後に集まって研究まっしぐらと言いたいところですが、各校の情報交換の場になることもしばしばでした。子供たちの目線で、現場で必要とすること、自分達が追究したいこと、課題となっていること等をテーマとして取り組みました。その中でも、年齢に関係なくリベラルな関係で自由に意見が言い合える環境は最高の居心地でした。そうした先輩たちも次第に他の部会に異動してしまう状況で、新規の小学校部員が少なくなってきたこともあり、小中連携で研究を進めていくこともありました。中学校の先生方との交流は刺激的でした。専門的な意見を伺うことができると同時に、理科嫌いにさせないために小学校における指導がいかに大切であるかということに気付かせてくれました。

ただ目の前の事物や現象を注意深く観察したり、実験したりすることで、驚きと感動のドラマがあるように、教師自らが共に楽しみながら授業を作り上げていくおもしろさが理科にはあります。

何よりも多くの先生方と関わり合いながら研究を進めることができたことは感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

今後求められる資質・能力として理科教育が担う役割は大きいと思います。皆様の御健勝と御活躍、印教研理科研究部のますますの発展を御祈念申し上げます。

お知らせとお願い

- ・例年新年度の印教研総会の後に歓送迎会を兼ねた懇親会を行っておりますが、新型コロナウイルス感染防止のため昨年に引き続き開催できない状況です。今までお世話になった諸先輩方のお話を直接うかがう貴重な機会を失い大変残念です。退職される先生方のご健康とこれからのご活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。
- ・学校現場を離れ行政等に異動された先生方が把握しきれず、ご迷惑をおかけすることがあります。大変お手数ですが、異動先を理科研究部へお知らせいただくと助かります。理科研究部へのメール (rikainba@yahoo.co.jp) または成田小学校 (TEL 0476-22-1334 FAX 0476-22-1335) 立田まで直接お知らせください。ご協力お願いいたします。

理研会報も本年度の最終号となりました。本年度は作品展も県教研も無かったため発行部数が少なくなり、申し訳ありませんでした。今まで多くの先生方のご協力で理研会報を発行できました。ありがとうございました。来年度も理科研究部へのご協力をよろしくお願いいたします。